

静脈血採血、動脈血採血、静脈留置針挿入、注射

静脈・動脈採血及び注射により以下のような併発症を起こす可能性があり、まれに併発症に対する治療を行うことがあります。これらの併発症が生じた場合は最善の処置を行います。

1. 皮下血腫・止血困難

刺した針や留置した針（チューブ）で血管が傷ついてしまうことで起こります。針を抜いた後の止血が不十分でも原因となります。十分に圧迫して止血をしていただきますようお願いいたします。血液をサラサラにするお薬（抗凝固薬、抗血小板薬）を投与されている方は特に十分な時間の圧迫をお願いいたします。

2. 静脈炎・蜂窩織炎

留置した部位から静脈内や皮下組織に細菌が入り、炎症を起こすことがあります。

3. 神経損傷

穿刺針で神経を傷つけ、手指へ拡がる痛みやしびれが続き、治療が必要となることがあります。皮膚表層の神経の位置は個人差が大きいため神経損傷を確実に防止することはできず、約 1 万回に 1 回の頻度で治療が必要な損傷が起こるとされています。特に手首付近の親指側や、肘内面の小指側の静脈は神経が近く、穿刺を避けるべきとされていますが、他の静脈が見つからずやむを得ず穿刺する場合があります。放散痛（指先にひびく痛み）や電気が走るような激しい痛みを感じたらすぐにお知らせください。

4. 血管迷走神経反応

針を刺す前後に急激に血圧が下がり（血の気が引く）、冷や汗、めまい、気分不快感や失神などを引き起こすことがあります。0.01%～1%の頻度で起こり、緊張や不安が強いと起こりやすいとされています。

5. 血管外漏出（点滴漏れ）

破れたり炎症を起こした血管から輸液や薬液が静脈の外に漏れ、腫れたり、周囲の組織が痛んでしまうことがあります。